

令和6年度 学校評価表(年度末)

愛南町立城辺中学校

【選択肢】 A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない ?…判定できない		【評価基準:アンケート結果のうち肯定(AB)の割合】 80%以上(A)、60%以上(B)、40%以上(C)、40%未満(D)		回答数 教職員11 生徒118 保護者90 地域住民44		評価資料		アンケート結果のうち肯定(A、B)の割合						
重点目標	評価指標 及び目標値	期間	評価	学校による考察<◇> 及び改善策等<◆>					A	B	C	D	?	
生徒の健全育成	生徒理解に努め、生徒の課題に積極的に対応している。	中間期	A	◇評価者のいずれもが目標値に達しているため評価をAとした。各学校行事(修学旅行や集団宿泊研修)や部活動を通して、よりよい集団づくりを進めることができたからと考える。SNSの利用については使い方や使用する時間帯についてルールやマナーが守れていない生徒が存在し、数件のトラブルが発生した。より一層家庭との共通認識や見守り体制の強化が必要である。◆少数ではあるが、保護者、生徒における否定的な回答がある。今後も、日頃からの生徒の様子に組織的に気を配ることが必要である。また、行事を通じて学年だけでなく他学年を含めて、よりよい集団づくり・人間関係づくりに努める。				教職員	6.7	100%	6	18	0	0
	いじめがなく、認め合い支え合う集団づくりに努めている。	年度末	A	◇評価者のいずれもが目標値に達しているためA評価とした。その一方で、生徒・保護者ともにD評価が5件ずつある。また、肯定率の割合が、保護者は中間期85%から年度末80%に下がった。一部の生徒の学校生活の様子や不登校傾向の生徒を心配する声が保護者の記述にあったことから、それらが肯定率がやや下がった要因と考えられる。◆欠席、遅刻日数が多い生徒への対応、家庭での生活習慣やSNSを介する問題を含めた生徒同士の人間関係など、様々な要因が考えられる。今後も、家庭と連携を密にしてより良い方向への支援を続けるとともに、望ましいSNSとの関り方について情報を発信していく。				教職員	6.7	100%	7	15	0	0
指導の徹底	自立心や自律性、規範意識など豊かな人間性を持った生徒を育てている。	中間期	A	◇いずれの評価も肯定評価が90%を超えているので、A評価とした。教師と生徒、また生徒同士が対話を通して学びあうことができるよう、教職員が授業を工夫することができている。生徒も様々な場面で、活発に話し合ったり自信を持って発表したりしていることが、肯定的な評価に繋がったと考えられる。◆実際の学校生活の様子を見ると、自律性や規範意識は十分ではないように感じる。生徒自身で考えられる機会や、道徳の授業を通して、それらを育てられるように工夫をする必要がある。				教職員	8	100%	2	10	0	0
		年度末	A	◇いずれの評価も肯定評価が80%以上を超えているので、中間期と同様にA評価とした。教師が100%から91%、保護者が90%から88%と中間期よりも低下したが、生徒はA,B評価が増加した結果となった。対話を意識した授業を実施し、徐々にではあるが、自分の思いを伝え周りの考えに耳を傾けようとする生徒が増加したと考えられる。◆中間期と同様に道徳科の授業改善をさらに進め、生徒の道徳性を高めていく必要がある。				教職員	8	91%	1	9	1	0
	特別支援教育の推進	中間期	A	◇教職員、生徒ともに肯定率が80%以上であるためA評価とした。生徒間で個性の違いはあるものの、互いに意見を交わしながら協力して学校生活を送ろうとする姿が見られた。特別支援学級に在籍する生徒も、交流学級での授業に積極的に臨むことができた。◆生徒個々の特性を的確に把握してその後の支援につなげていけるよう、教職員間で特別支援教育に関する理解を高めていく。				教職員	9	100%	1	11	0	0
		年度末	A	◇評価者のいずれも80%以上の肯定率であったためA評価としたものの、教職員でC評価が増える結果となった。教職員全体で一つの方向を向いて協力体制が取れているかという意味では不十分、との見方があると考えられる。◆「学校全体」での支援体制の充実に向け、校内研修等で発達障害をはじめとした各種障害への正しい理解を深める。困り感のある生徒をはじめ誰もが安心して過ごせる居場所となるよう、特別支援教育の視点を取り入れた教育活動を引き続き行いたい。				教職員	9	82%	3	6	2	0
人権・推進教育の	学校生活を通し、人権意識の高い生徒を育てている。	中間期	A	◇教職員、生徒いずれも80%以上の肯定率であるためA評価とした。学校生活では、各学年とも落ち着いた雰囲気や様々な活動に臨んでいると考える。1学期の間に、「人権口演会」を開催でき、生徒たちは前向きな考えを伝えることもできた。◆今後も引き続きSNSやメールでの誹謗中傷、悪口等のいじめに十分に配慮し、人権意識の高い生徒の育成に努めていく。2学期の校区別人権・同和教育懇談会へ向けて、計画的な取組ができるよう校内研修等で共通理解を図る。				教職員	10	100%	2	10	0	0
		年度末	A	◇いずれの評価者も80%以上の肯定率のためA評価とした。特に校区別人権・同和教育懇談会に向けて、講師を招いた校内研修を実施し、教員の人権意識の向上を図った。生徒も人権課題に対する対話活動を通して、人権意識を向上させたと考えられる。◆人権意識は、日々の学校生活の中で培っていくものであるため、評議委員会を中心に呼び掛けを継続していきたい。さらに、教職員の人権意識の高い言葉遣いや態度、振る舞いを大切に、生徒と関わっていききたい。				教職員	10	100%	2	9	0	0
学校運営協議会委員の所見(中間期)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの成果が表れていると感じる。その一方で、SNSの使い方やネット活用が課題である。これこそ、生徒の「対話」で良い方法を見出していくとよい。 ・スマホの使用状況が気になる。実態をぜひ調査していただきたい。 ・のびのびと学校生活を送ることができる生徒が、これからも増えることを期待する。 			学校の対応(中間期)	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSやインターネットの使い方については、提案いただいた生徒同士の対話を通して、よりよい使い方を主体的に考えさせていきたい。 ・スマホ等の使用状況については、学校生活アンケートや保健調査等で実施する予定である。結果については、改めて報告していく。 									
学校運営協議会委員の所見(年度末)	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校やいじめは少なくなったと思うが、生徒や保護者の中には心配する評価がある。対応している姿勢が伝わるようにできるとよい。 ・特別支援教育の教職員のC評価が気になる。共通理解・共通実践をお願いしたい。 ・対話を通じたSNSのよりよい活用の在り方を進めてほしい。また、その情報発信もお願いしたい。 ・校区別人権・同和教育懇談会での対話活動は、工夫され効果的であったことが伝わった。 			学校の対応(年度末)	<ul style="list-style-type: none"> ・該当者やその保護者にはその都度対応しているが、周りに伝わっていないと思われる。すべてを知らせることはできないが、個別に丁寧に説明していく。 ・特別支援教育については、校内での研修において事例対応や障がい等の理解について深めていく予定である。 ・SNSのよりよい活用については、委員の意見を参考にしていきたい。 									